

沖縄修学旅行

— 平和・文化・美しい自然を満喫した4日間 —

2年次生は12月4日から3泊4日で沖縄本島への修学旅行に行ってきました。

1日目

羽田空港
↓
那覇空港
↓
沖縄美ら海水族館見学
↓
〔恩納村泊〕



2日目

班別タクシー研修
マリン体験
カヌー体験
↓
〔恩納村泊〕



3日目

クラス別
平和学習
(各地)
↓
国際通り
↓
〔那覇市泊〕



4日目

首里城見学
↓
クラス別
市内見学
↓
山梨へ帰郷



校長 斉木 邦彦

この本を話題にしました。「ニャンとかなる」人生とは、どこかに余裕を持ちつつも、自分の力でひたすら努力し、真面目に生きていく姿勢を指して「ニャンとかなる」と表現しているのだと思います。実に奥の深い、いい言葉だと改めて思います。

3年生は西高卒業と大学入試が重なります。入試はどんな競争相手が集まるのか予測できず合否は運に左右される部分が大きいです。皆さんは遠回りのようですが、日常生活、残りわずかとなった高校生活の充実を第一に心がけてください。自分を信じて一日一日を努力してい

「がんばれ！西高生」「くじけるな！西高生」

く、その先に運命としての結果が待っている、その運命を受け入れ、その時点でさてどうするかを考える、そうするしかないと思います。

1, 2年生の皆さんは高校生活が続きます。大学入試や将来のことなどを考えると、期待よりも不安ばかりが募ってしまいがちですが、きょうまくいくと信じて目の前の一つ一つのことに正面から向き合ってください。

ある哲学者が述べています。時間は次々と過ぎ去り消えていくのではない、その中で起きた全ての出来事を含みつつ持続しているのが時間である。時間は直線上を進むイメージではなく、全てを飲み込んで膨張していくイメージで捉えられています。時間をそういうものだと考えると、皆さんのこれまでの十数年間の人生の時間は全て現在である、と見なすことも可能です。全ての出来事は、楽しいことも、悲しいことも、つらいことも、今の自分の中にそっくり保存されている。ただし自分自身は常に変化していますから、出来事の意味は振り返るその都度、変わっていきます。どんなに広がる新たな世界の中で、これまでの自分を絶えず見直していく姿勢は、決して後ろ向きの生き方ではない、と私は思います。そこに新たな自分の発見があるならば、それこそが本当の自分との出会いと言えるのではないのでしょうか。

(1月9日、新しい年を迎えるにあたっての校内放送より)

音楽発表会 12月23日

今年で13回目の開催となる音楽発表会。1年次の音楽選択者や音楽系大学を志望している2,3年生の発表による西高独自の行事です。吹奏楽部・音楽部・箏曲部の音楽系の部の演奏発表や三味線の独奏も披露されました。



大学入試センター試験 1月13,14日

大学入試本番!! 西高3年生が積み重ねた努力を発揮すべく、大学入試センター試験に挑みました。試験会場入口で担任の先生からの激励を受け、緊張感の中「チーム西高」のもと全員で進路実現への最終ステージに突入しました。



information

67th 鳳凰祭

2018年6月30日(土) 一般公開 9:30~14:00
会場 甲府西高等学校

西高最大のイベントです。ぜひ楽しんでください。



学校説明会

2018年7月22日(日) 13:00~
会場 コラニー文化ホール

入試情報や進路状況、西高ライブを紹介します。



オープンスクール

2018年9月1日(土) 9:00~12:10
会場 甲府西高等学校

体験授業や在校生との懇談会、部活動見学など西高のリアルを体験してください。



山梨県立甲府西高等学校

〒400-0064 山梨県甲府市下飯田4丁目1

TEL:055-228-5161 FAX:055-228-5164

URL <http://www.nishi.kai.ed.jp/>

発行日/2018.2 編集/広報委員会



*stage /steidz/

[[立っている場所]が「原義」] — ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ ㊫ ㊬ ㊭ ㊮ ㊯ ㊰ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

1 舞台、ステージ(◆世界の象徴)

2 [活動の]舞台、場所 [for. of]

3 (発進・発展などの)段階、時期

用例) 1 N-stage 西高生の時代(時期)

2 N-stage 西高生の活動舞台

vol.52

2018.2 甲府西高情報誌

西高のステージへ!



山梨県立甲府西高等学校

Kofu Nishi High School



修学旅行事前学習 ~がちゅん講演~

沖縄を拠点とする実現型ディスカッション企業「株式会社がちゅん」より講師の方をお招きし、戦争や基地問題を含めた平和を考える講演をしていただきました。社名「がちゅん」の由来である「ガチ(本気)」で「ゆんたく(対話する)」の通り、講演の中でも、対話の場面が多く組み込まれ、生徒たちは積極的に対話を行っていました。安全・経済・生活など様々な面から見た沖縄における米軍基地問題に対する「真実」を知り、修学旅行に向け、「何が問題なのか」、「自分はいかにこれらどうするべきなのか」を考える良い機会となりました。



沖縄への修学旅行を振り返って

今回私は、修学旅行実行委員長を務めさせて頂きました。実行委員長として特別に何をしたいという事はありませんが、学年の一員として皆と最高の思い出を作ることが出来ました。普段の生活では経験することのできないたくさんを経験し、本当に有意義な時間を過ごせたと思います。この4日間を共に過ごした仲間、私たちの活動を支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。



修学旅行委員会 委員長 2年 大野 仁寛(双葉中)